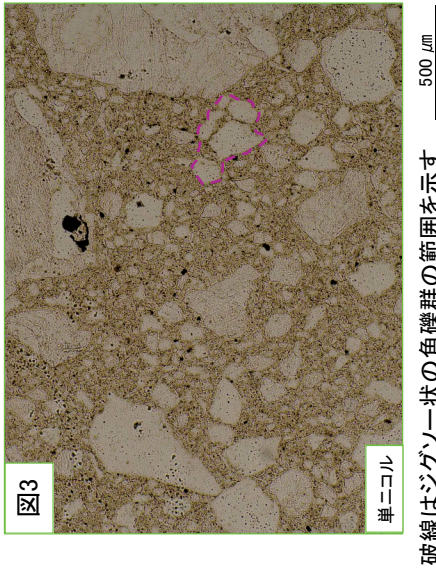
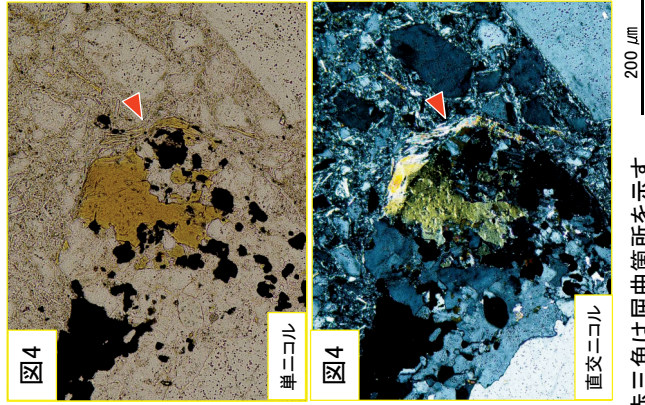
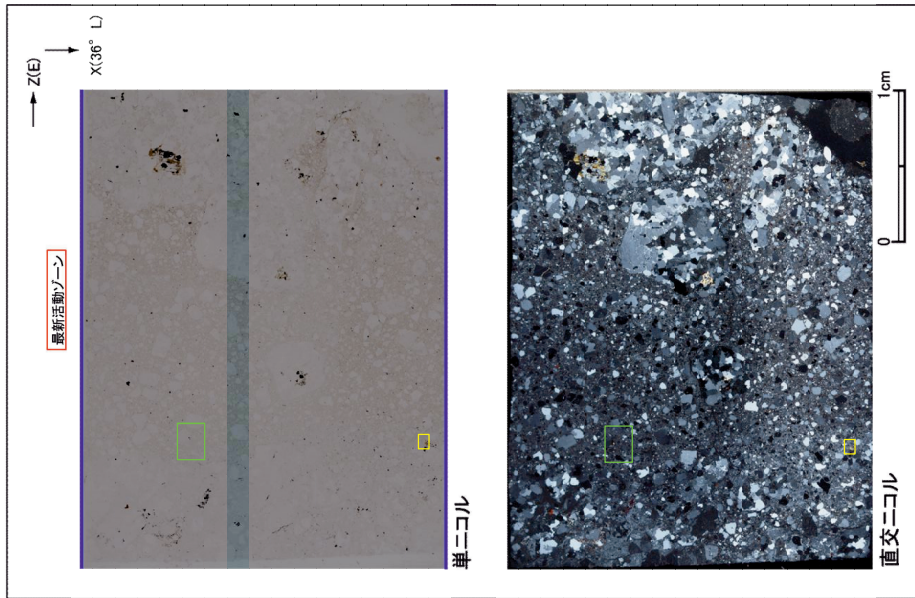
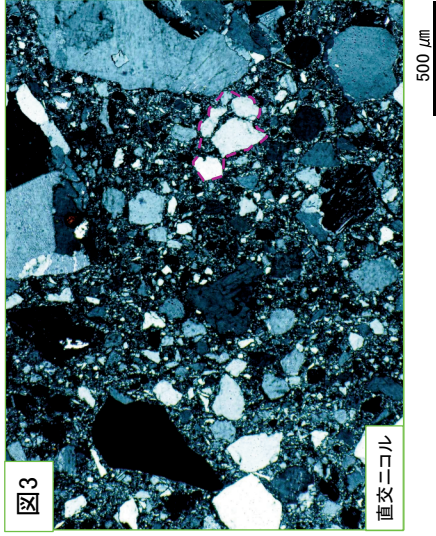


- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



↑
ステージを時計回りに
約20度回転

赤三角は屈曲箇所を示す

(肉眼観察結果 深度63.85m)

- 肉眼観察では、礫質粘土状部は原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる。組織は認められないが、やや硬質で、粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトとして評価した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫質粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度68.02～68.05mの「砂混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質で、脈状の細粒部を伴わず、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度68.05～68.06mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められないが、細粒部の連続性及び直線性が乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・一方、深度68.05mには幅1～2mmの淡黄色粘土が挟在しており、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱った。

ボーリング柱状図

●68.02～68.06m：破碎部
 68.02～68.05m：砂混じり礫状部（H）
 ） 上端40°で不明瞭に連続、下端41°で直線的に連続。微細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に定向性を示す。にぶい橙色を呈する。幅25mm。
 68.05～68.06m：礫混じり粘土状部（Hc-2）
 上端41°で直線的に連続、下端30°で波打って連続。上端には径1mmの石英粒をごく少量（5%以下）含む幅1～2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐色を呈する。幅10mm。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破碎部範囲※
 ※：写真上は白色で記載

深度68.05mの連続性及び直線性が良い淡黄色粘土

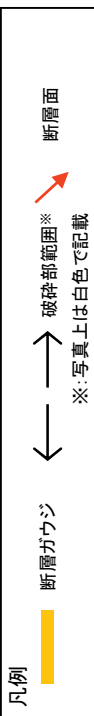


青粋部拡大

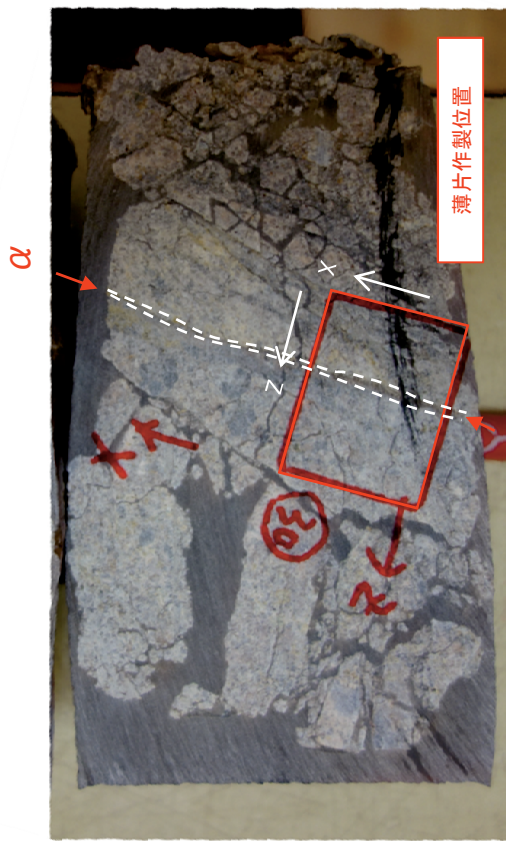
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

コア写真



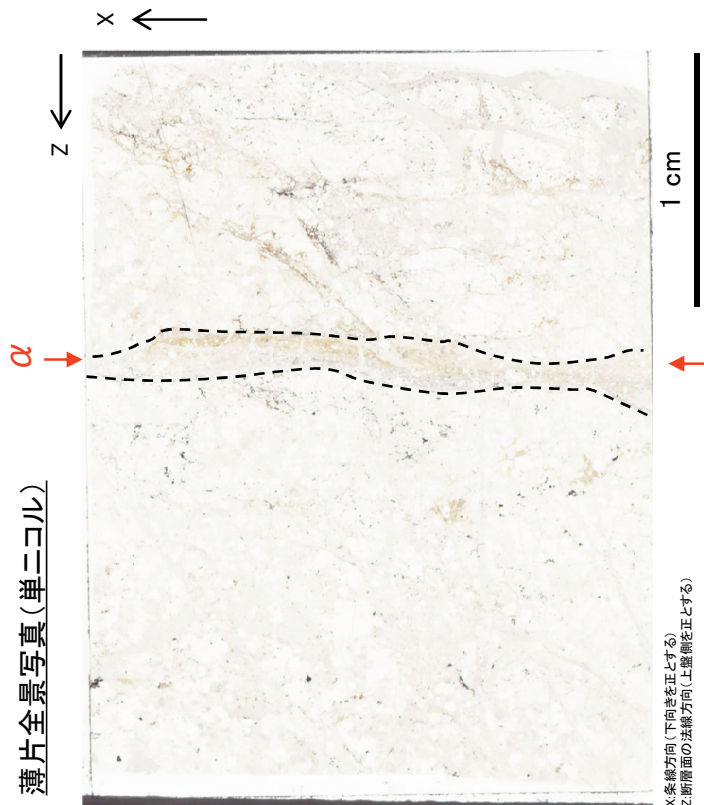
薄片作製位置写真



※: 写真上は白色又は黒色で記載



薄片全景写真(単ニコル)

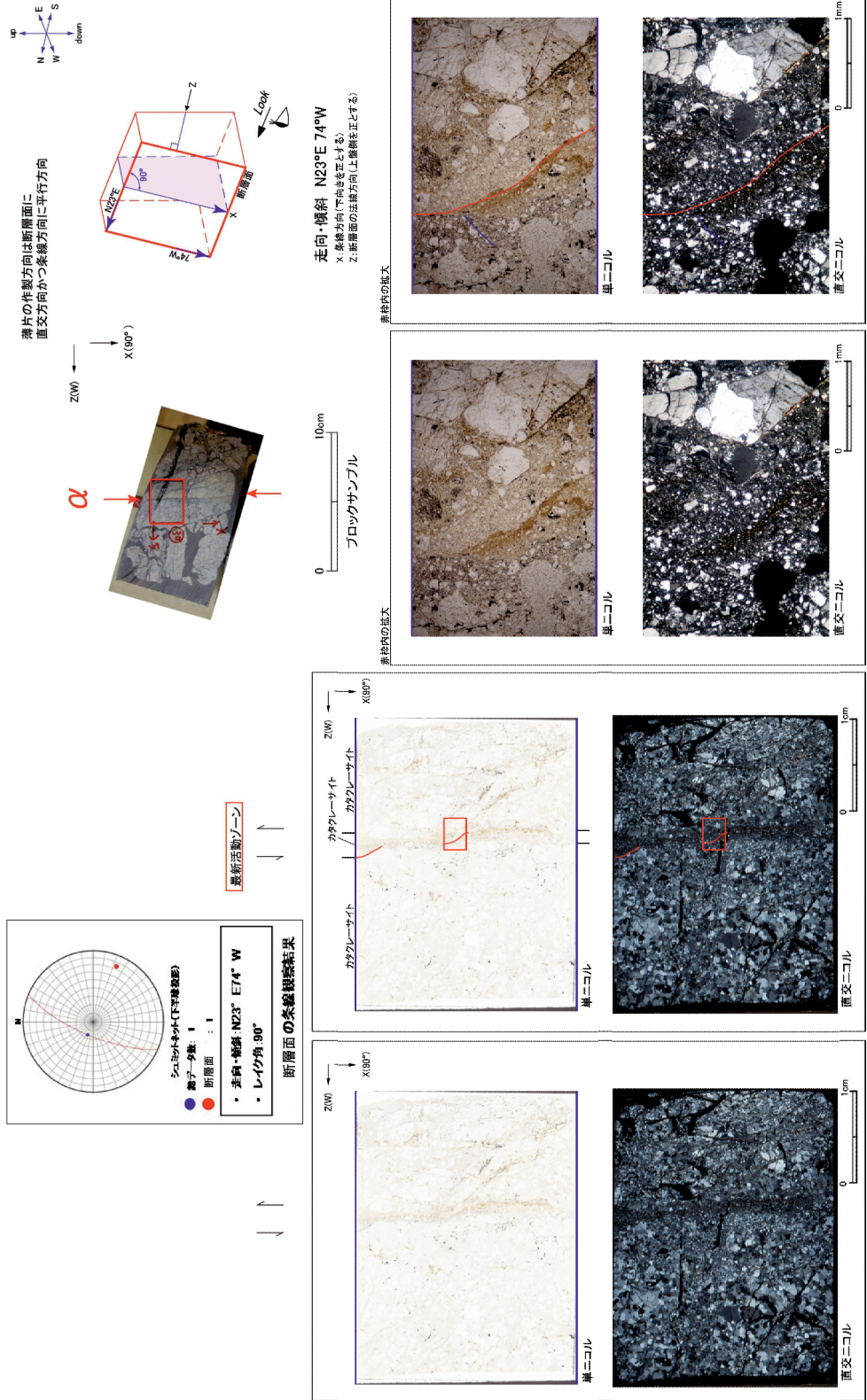


※: 写真上は白色又は黒色で記載

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

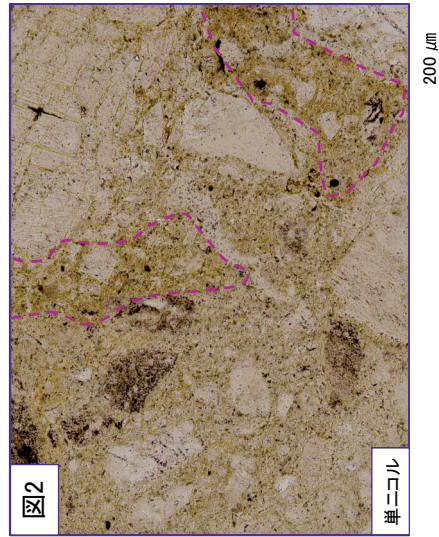
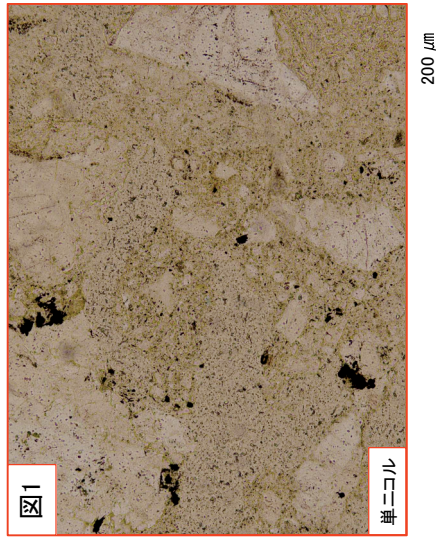
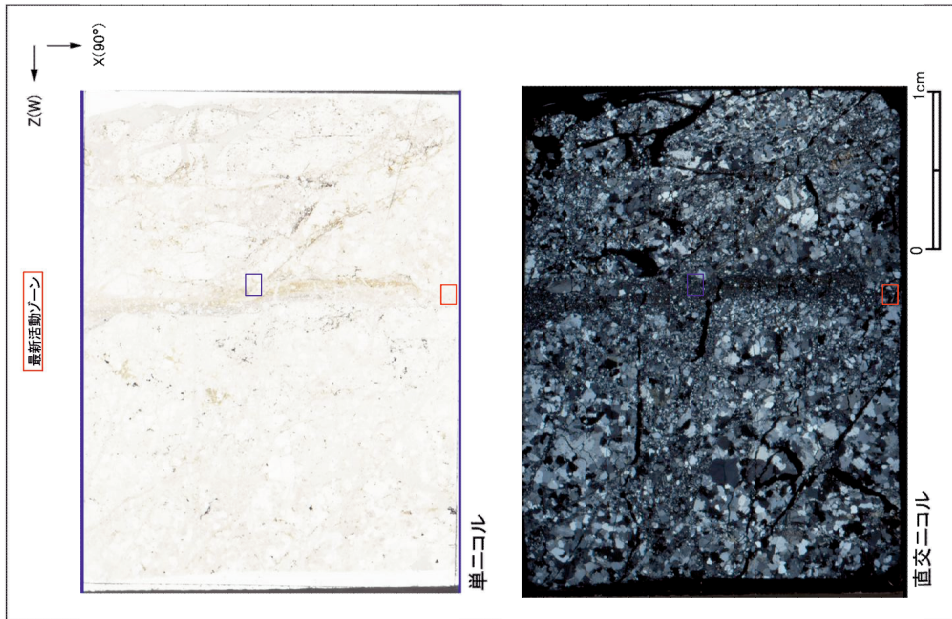
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の粘土状態は局所的である。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.290図 (3) 破砕部性状 H27-B-2 深度68.02~68.06m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1, 2)
- 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片が多く認められる。(図2)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1, 2)
- 角ばった岩片が多い。(図1, 2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す

